

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2376200164		
法人名	有限会社 大翔		
事業所名	グループホーム日和		
所在地	愛知県豊田市大坪町日向下23番地		
自己評価作成日	令和5年1月27日	評価結果市町村受理日	令和5年5月22日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="https://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/23/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&amp;Jigy_osvoCd=2376200164-00&amp;ServiceCd=320&amp;Type=search">https://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/23/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&amp;Jigy_osvoCd=2376200164-00&amp;ServiceCd=320&amp;Type=search</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人『サークル・福寿草』		
所在地	愛知県名古屋市中熱田区三本松町13番19号		
訪問調査日	令和5年2月26日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<ul style="list-style-type: none"> <li>・自然豊かな環境に立地しており、建物は代表の生家をリフォームした設えになっている。</li> <li>・所在が変わっても生まれ育った環境に近い環境と家庭的な雰囲気の中安心して生活ができる。</li> <li>・いつでも戸外を自由に散歩され、自然を満喫していただいている。</li> <li>・ご本人の希望で併設の家庭菜園で野菜作りや収穫を楽しむことができる。</li> <li>・食事は、旬の野菜や山の幸、採れたての野菜をふんだんに取り入れて、手作りで提供している。</li> <li>・料理がお好きな方には料理作りに参加していただいている。</li> <li>・家族の他、友人や知人、親戚の訪問も常時受け入れ、オープンで家庭的な関係を築いている。</li> </ul>
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>感染症問題が続いていることもあり、利用者の外出が困難な状況が続いているが、近隣の場所に定期的に移動販売車が来訪していることで、来訪時には利用者に出かける機会をつくっており、利用者の楽しみにつなげている。利用者の外出については、日中の時間はホーム内に施設を行わないように、利用者がホームの外に出ることができるような支援も行われている。家族との交流についても困難な状況が続いているが、今年度の入り、家族との交流会を実施しており、徐々に家族との交流の機会を再開する取り組みが行われている。日常生活に関する支援については、1ユニットのホームである利点も活かしながら、職員間でLINEも活用しながら情報共有や情報交換を行っており、職員から出された意見や提案等を法人代表者でもある管理を通じてホームの運営に反映する取り組みが行われている。</p>
--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)		

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	「支え合い・受け止め合い」を理念に掲げ、一方通行の関係にならないように従事している。	利用者、家族、職員が、「支え合い、受け止め合う」をことを目指した内容の理念を掲げており、職員による日常の支援の基本にもつながっている。理念をホーム内に掲示し、日常的に職員間で共有が行われている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	地域性もあり、今までの家の延長として地域の方々との交流の機会を作っている。利用者様と一緒にゴミ捨て場にゴミを捨てに行ったりもしている。	当ホームについては、前法人代表者の自宅でもあったことで、地域の方には馴染みの関係でもある。ホームの2階には、現在でも代表者の身内の方が生活しており、地域の行事に参加する等の交流が行われている。	地域の方との交流の機会が限られた範囲となっている状況でもあるため、今後の感染症の状況もみながら、徐々に交流の機会が増えることを期待したい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	地域の方々との交流を通じ、利用者様とのコミュニケーションの場を作り、理解に努めた。例年では8/17の日和交流会で地域の子供たちや老人クラブの方々を交えて流しそうめんなどで皆様と楽しめた。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	会議では要望や苦情等言いづらいことも発言できるような環境作りに務めている。例年では毎年秋に地域の会館をお借りして家族様との交流会及び昼食会を開き様々なご意見をいただいている。	会議については、感染症の状況をみながら開催の判断を行っており、会議を開催する際には、感染症対策を行いながら実施している。会議に家族の参加も得られており、家族との交流の機会にもつながっている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる。	地域包括職員・町内会長・老人クラブ会長・民生委員には、運営推進会議に参加していただいた。会議の案内状は訪問で直接手渡しすることで、コミュニケーションの機会を増やしたり、報告やアドバイス等ご意見もいただけた。	市内の介護事業所が集まる連絡会や研修会等にリモート方式を含めて参加する機会をつくり、情報交換の機会につなげている。また、市の介護相談員が毎月ホームに訪問しており、市担当部署との情報交換の機会にもつながっている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	山村の関係から、地域を含めて生活エリアを捉えて、行動を束縛しないように心がけている。自由に散歩していただく為、玄関である門扉には施錠せず防犯カメラで外出時間が確認できるようにしている。	身体拘束を行わない方針で支援が行われており、利用者がホームに庭に自由に出る等、職員間で利用者の見守りが行われている。また、身体拘束に関する定期的な検討や職員研修を実施しており、職員の振り返りにつなげている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	研修には積極的に参加し、ミーティングの席で全職員に伝達学習の機会を設けている。毎月のミーティングで前月の関わりに虐待は無かったかと振り返る場を設けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	利用者様を理解する為、生活史を把握し、真に尊敬すべき先人であることを認め権利を守るようにしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	利用者様の権利を守るため契約である旨を伝え、契約に関わることは常に相談の上決めることを説明し、理解していただいている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	ご家族の面会時・電話時・家庭訪問時にご意見を聞くようにしている。	家族との交流については、今年度に入り、家族との交流会を再開する等、徐々に家族との交流の機会を増やす取り組みが行われている。毎月のホーム便りの他にもLINEを活用した家族との情報交換が行われており、家族からの要望等の把握につなげている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	毎月ミーティングを行っている。その中にフリートークのコーナーを設け、意見を出せる場を作っている。ミーティングは一方通行にならないよう日頃より何でも話せる関係づくりに努めている。	毎月の職員会議や日常的な職員間での情報交換が行われており、法人代表者でもある管理者が把握した職員からの意見等をホームの運営に反映する取り組みが行われている。また、職員間でLINEを活用した共有も行われており、随時の対応が行われている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	仕事別に担当を決め、権限を与えリーダーになるべき自覚を感じられるような場を提供している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	中堅職員にも外部研修への参加を促した。新たな発見や、同業者とのコミュニケーションが図れたとの有意義な感想が得られた。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。	ZOOMによる協会主催の研修会にも積極的に参加させていただいた。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	インテークの際から信頼関係を築き、本人のニーズを把握するよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	ケアプランの作成に向けて、家族ともしっかりと向き合い、聞き取りを行ってサービス提供できるように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	導入時、本人や家族のニーズに対して優先順位に従い、サービス提供できるように努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	本人を介護される一方的な立場を超えて、家族のような関係を築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	本人と家族の想いに従って外出や外泊を自由にしてもらっている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	友人や知人、親戚の方の訪問も常時受け入れて、個別での時間をゆったりと取っていた。	現状、外部の方との交流が困難な状況が続いているが、利用者の中には、入居前からの友人、知人の訪問がある等、馴染みの方との交流が行われている。また、家族との外出も行われており、身内の方の葬儀に出かける等の機会がつけられている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	新入居の方が輪に馴染めるように調節したり、配慮した声掛けをするように心がけている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	在宅医療機関や次の施設への転居の際も関係職種と連携を取りながら、随時訪問や面会を実施している。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	生活を通じて本人の暮らし方を理解し、意向に近づけるよう努力している。	職員間で利用者や家族の意向等に関する情報交換が行われており、日常の支援に反映する取り組みが行われている。また、毎月のカンファレンスを実施しており、利用者や家族の意向等を検討し、LINE等も活用しながら職員間での共有につなげている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	情報収集の際には、本人からの聞き取りを行うと同時に、家族や親族、関係者からも聞き取りを行い、ケアプランに反映できるようにしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	アセスメントをチームで確認し、日々の状況変化にも柔軟に対応できるよう努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	アセスメントの段階から本人や家族等の関係者間でしっかりと話し合い、サービス導入後も常に本人に即したものになるようモニタリングを行っている。	介護計画については、基本6か月での見直しが行われており、利用者の状態変化等に合わせた対応が行われている。日常的にもiPad活用した記録を残し、利用者の状態変化等のチェックを行いながら、定期的なモニタリングにつなげる取り組みが行われている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	日々の個別カルテや日誌を記録し、情報を交換している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	施設内の個別ケアのみにとらわれず、必要に応じ、フォーマル、インフォーマルなサービスを取り入れるよう意識しながらケアにあたっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	毎週木曜日の移動販売を活用し一緒にお買い物をし好きなものを自身のお金で購入し、日常の暮らしを楽しんでいただいている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	入所の段階で、家族へ受診に際しての付き添い協力を依頼している。医療関係については、当施設の協力病院の紹介や、以前から希望されているかかりつけ医の受診が可能かどうか相談しながら進めている。	協力医療機関で訪問診療等の取り組みが始まったこともあり、ホームに協力医が訪問し、利用者の健康状態に合わせた支援につなげている。医療機関への受診については、家族による対応を基本としており、ホームから情報提供等が行われている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	現在看護職はいないが、毎日バイタルチェックを必ず行い、本人の状況変化に対して、かかりつけ医、ご家族と随時相談、連携している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	かかりつけ医の定期受診時には、文章で連携を取っている。また、協力病院へは連携室を通し、速やかな対応を取っている。入院時は、今後の経過やリハビリ、治療方針など情報交換を行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	ADLが少しずつ低下してきたり、医師の診断により今後重症化が予測された場合は、本人や家族と話し合い、協力しながら段階的に支援を進めている。	身体状態の重い方も支援が行われているが、現状の支援体制もあり、利用者の段階に合わせて次の生活場所への移行支援が行われている。家族には、医療面での連携に制約のあることを伝えながら、ホームで支援可能な内容の話し合いが行われている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	急変時の対応には、職員間で情報やマニュアルの確認を行い、速やかに対応できるようにしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	毎月一回色々な状況を想定し避難訓練を実施している。	毎月の避難訓練の想定を行いながら、状況等にも合わせて様々な取り組みが行われている。夜間を想定した訓練や通報装置の確認も行われており、職員間で連携が行われている。また、ホーム内に水や食事等の備蓄品の確保も行われている。	例年は、運営推進会議を通じた訓練を実施する等、地域の方との協力関係にも取り組んでいる。今後の状況をみながら、ホームの取り組みが再開されることを期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	利用者様の生活史を知ることによって理解し、尊重した言葉かけや対応に心がけている。	職員間で基本理念に掲げられている内容を共有し、利用者への対応や言葉遣い等の意識向上につなげている。職員間で利用者に合わせて対応の検討を行いながら、職員への注意喚起等につなげている。また、利用者のおしゃれに関する支援も行われている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	全体の中で言いにくいことなどは、個別に居室に訪問して、思いや要望を話していただいている。また、個浴の際、リラックスできる雰囲気作りをすることで思いを表していただいている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	一日としてのスケジュールは存在するが、利用者個人の希望に沿った支援ができるよう努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	定期的な散髪、日々の洋服選び等は、本人の希望に添えるように努めている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	食事の配膳、下膳、食器洗い、片付けなど利用者様に積極的に参加していただいている。	職員間でメニューを考え、利用者の好みや嗜好等にも配慮している。季節等に合わせた野菜類も加えながら、利用者も調理や片付け等のできることに参加している。おやつ作りや季節に合わせた食事作りも行いながら、職員も利用者を一緒に食事を行っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	旬のものを取り入れた献立をもとに利用者の適した量や形態にて提供している。食事摂取量やその他気になる点は、カルテに記載して適宜対応している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。	一日に二回の食後の歯磨き、入浴時や夜間の義歯の洗浄を行っている。航空の観察を行い、必要時ご家族の元歯科受診へつなげている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている。	個人カルテでは時間経過や排出行動について、また業務日報では利用者の排出時間を専用のタブレットで入力し、個人の排泄パターンの応じた支援を行っている。	利用者の排泄記録を残し、日常的に職員間で情報交換を行いながら、一人ひとりに合わせた排泄支援につなげている。現状、実質的に使用できるトイレが1か所であることで、ポータブルトイレも活用しながら、排泄状態の維持、改善に取り組んでいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。	乳製品や繊維の多い食事を取り入れたり、運動等による便秘予防に取り組んでいる。また、かかりつけ医からの処方薬を調節しながら服薬介助を行い、排便コントロールを行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている。	入浴は利用者に気分や体調に考慮し一人一人に声掛けしながら行っている。	利用者が週2～3回の入浴ができるように支援が行われており、入浴を拒む方も声かけを行いながら定期的な入浴につなげている。利用者の身体状態の合わせた職員2名での支援も行われている。季節等に合わせた柚子湯や菖蒲湯等の入浴支援も行われている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。	利用者の希望に沿った安眠休息をして頂いている。希望者には、夜間の施錠を行いプライバシーの確保の確保をしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	処方された薬を個別のケースに分別し服薬介助を行っている。もし、症状変化が見られた場合は、すぐに医師に相談している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。	庭の掃き掃除、食事の手伝い、食器の片づけ、洗濯物たたみなどの家事に参加していただいたり、塗り絵や畑仕事、草取りなどの時間を個別に設けている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	移動販売車への買い物に付き添ったり、花見外出など季節ごとの外出行事を企画・実施している。	ホームでは、利用者が日常的に外出できるように、利用者がホームの近隣を散歩したり、庭を散策する等の支援が行われている。また、ホームの近隣の場所に定期的に移動販売車が来訪しており、利用者とは出かける機会がつくられている。	ホームの近隣に出かける機会はあるが、以前のような遠出を行う機会が限られていることもあるため、今後の感染症の状況もみながら、利用者の外出の機会につながることを期待したい。



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	楽しみの一つである移動販売の買い物に同行し、選ぶこと、お金の支払いを見守り支援している。家族には、毎月のお便りでお知らせしていく。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	「家に電話を掛けたい」そう言われる方には、間に入って電話の取次ぎをしたり、代行をしたりしている。年賀状もお手伝いしながら書いていただいている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	日々の何月日は利用者が分かるように掲示している。壁飾りも手作りで季節感のあるものを取り入れている。	ホームの建物は、民家を改装していることもあり、ホーム内は利用者に馴染みやすい生活環境がつけられている。リビングの壁面には、季節等に合わせた飾り付けや写真の掲示を行う等、アットホームな雰囲気づくりも行われている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	居室では個人でゆったりとくつろぐことができるよう整え、共有空間においては他者とのコミュニケーションの場として過ごしていただいている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	基本的に居室で使用するものは、家庭から馴染みの物をご用意していただいている。	居室には、利用者や家族の意向等にも合わせながら、使い慣れた家具類や好みの物等の持ち込みが行われており、一人ひとりに合わせた居室づくりが行われている。また、ベッドが設置されていることもあり、現状、全員の方がベッドで生活している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	居室内、共同スペースで混乱することがないように、トイレ等適宜分かりやすく表示、配置するよう心掛けている。		